



戦後75年特集

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

体験者に聞いた仙台空襲とは？

ニュース



落とされたんだ。今週は、1399人が亡くなった1945年7月10日の仙台空襲について、体験者に話を聞いたよ。

日本の敗戦で終わった75年前の太平洋戦争では、東北の都市も爆弾を

仙台市には陸軍の第二師団司令部という重要な施設がありました。人口



空襲を受け、がれきだらけになった仙台市中心部

1945年7月10日

大切な人や家 奪われた

も27万を超え、東京より北にある街で最も大きかったのが、アメリカ軍の攻撃対象になりました。7月10日午前0時すぎに始まった空襲は、B29爆撃機123機が2時間で1万3000発の爆弾を落とすとされます。



「家で寝ていたらドドーンという音がして目が覚めた」。当時、東二番丁小の3年生だった田島稜威雄さん(84)「泉区」は振り返ります。

近くにあった防空壕に避難すると、誰かに「ここは危ない」と声を掛けられました。そこで仙台駅構内へ逃げ、さらに線路を越えて新寺地区にたどり着いたそうです。

家は焼けて何も残りませんでした。大の仲良しだった近所の同級生は妹ら家族と共に防空壕の中で亡くなりました。田島さんは「夕方に『あしたも遊ぼうね』と約束をしていたのに…。戦争は恐ろしい」と話します。

宮城高等女学校(現在

の宮城学院中・高)1年だった広瀬喜美子さん(87)「青葉区」は、広瀬川に架かる大橋近くの自宅で空襲に遭いました。防空壕は満員で入れず、木の下にうずくまって爆撃が終わるのを待つしかありませんでした。

「広瀬川の河原は避難してきた人でぎっしり。火が付いた布団をかぶって逃げてきた人もいました」と広瀬さん。「炎が空に渦を巻き大きな蛇のようだった。その先に敵の飛行機が小さく見えた」と証言します。



家はおろうじて焼け残りましたが、市の中心部は焼け野原に。広瀬さんは「戦争は大切な人や家を奪う。75年前の悲しい出来事を学び、戦争を二度と起こさないようにしてほしい」と訴えます。

田島さんと広瀬さんは、仙台空襲の体験を語り継ぐ活動をしているよ。命と平和の大切さをみんなも考えよう。

今週の注目ニュース

◇21日(金) 日本初の女子大生が誕生
1913年のこの日、東北帝国大(今の東北大)が日本で初めて女子3人に入学を許可したんだ。「大学に進むのは男子だけ」という当時の常識を打ち破る画期的な出来事だったよ。

きょうの紙面

- 2面 ギモンにこたえるモン
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 いいね小学校
- 6面 絵でわかる こども英語
- 7面 河北新報紙齢4444号投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー